令和７年１２月１５日　*vol.37*

「願いはつづく」

県立神戸高等学校長
新谷　浩一

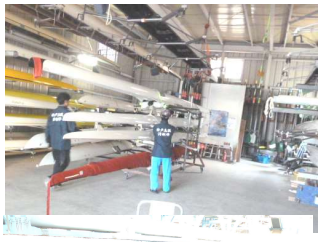
○　引き継いでいくもの

先週の日曜日はメリケンパークにいました。『兵庫県立神戸高等学校バスケットボール部創部 100 周年記念祝賀会』に呼んでいただいたのです。当日は顧問の山根先生、粂田先生とともに 20～80 代のＯＢの方々ら 90 人ほどがお集まりになられた会場に拍手で迎えていただきました。本当に有り難く、もったいないことでした。

それにしても 100 年の歴史は重たいですね。創部は 1925 年、本校前身の県一高女において誕生したバスケ部が途切れることなく今なお活動を継続しているのですから。ＯＢ会長からは「競技を楽しんでもらいたい」と激励をいただき、男女キャプテンからはそろってＯＢの方々にお礼のスピーチをしました。男子の目標の県ベスト８、叶えたいですね。

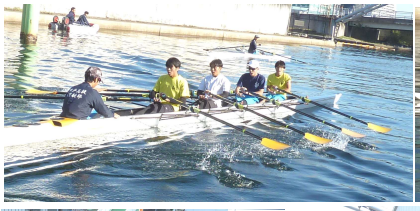
ちなみにこの日、山根先生と粂田先生はバスケ部の現況についてお話しを依頼され、私はそれ以外の現況報告を求められたので、簡単にお話した後は最近の定番としている３年生による『サリマライズ』合唱の動画を見てもらいました。ＯＢの方々には喜んでいただけたようで何よりでした。

また、参加された方々の中には以前からお世話になっている方や、同期採用の方などもおられ、久しぶりにお話しができたのも幸せでしたし、縁もゆかりもなかった私に様々な方が自身の過去の思い出話や今のバスケ部への期待など、思いの丈を熱く語ってくれたのも嬉しいことでした。



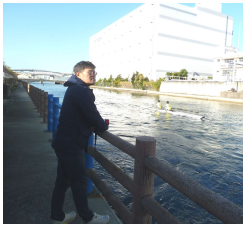
そう言えば…と思い出しました。つい先月下旬の土曜日、私は魚崎運河でボート部の練習を見せてもらったのです。ちなみに近畿圏内でボート部のある高校は 20 校もありません。校地近くでボートを漕げる学校はそれほど存在していないですもんね。当然、本校部員も授業のある日は校内でローイングマシンを漕いだり、筋力トレーニング等に励むなど工夫を凝らした練習をする他ありません。授業のない日が勝負です。

運河に併設された倉庫には神戸高校のボートも保管されていました。その多くはＯＢの方々から寄贈されたものということ。その時に思ったのです。「自分たちの思いを後輩たちに引き継ごうとしてくれる先輩方がいて幸せだな…」と。そのときの感慨がバスケ部に重なり、蘇ったのです。応援してくれる人がいるのは有り難いですね。



倉庫からボートを搬出し、オールを漕ぎ、終えたらボートを洗浄して倉庫に搬入する部員達は、それぞれが自分のやるべきことをしながら他の部員のサポートにも積極的に取り組んでいました。

篠倉先生は自身の経験を活かして指示を送りながらも、意見を押し付けることのない指導ぶりです。いい関係性でした。



校長室の窓から見下ろすと早朝からノックバットを振る西岡先生がいて、放課後には誰よりも大声を上げてボールを蹴る安田先生がいます。教え子でもある後輩に伝えたいのは技術ばかりではないですね。２人の姿に母校での宝石のような 11 年間を私は思い返しています。